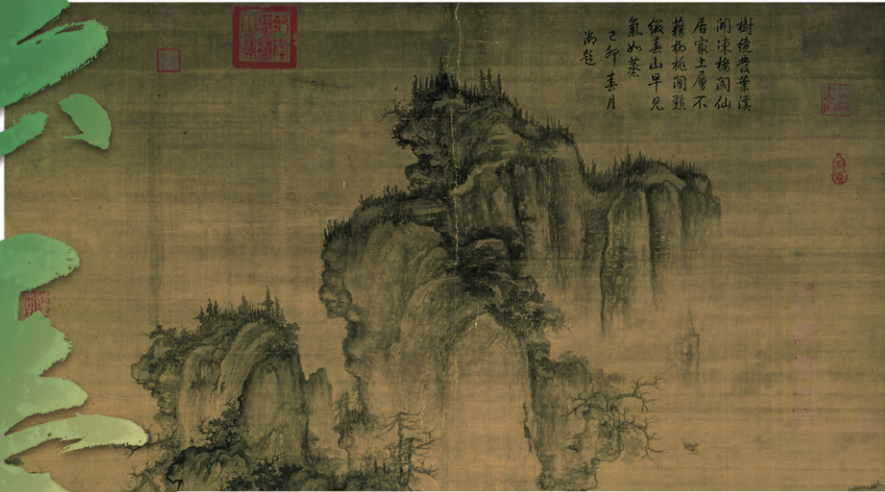


科學與藝術：春墨無極

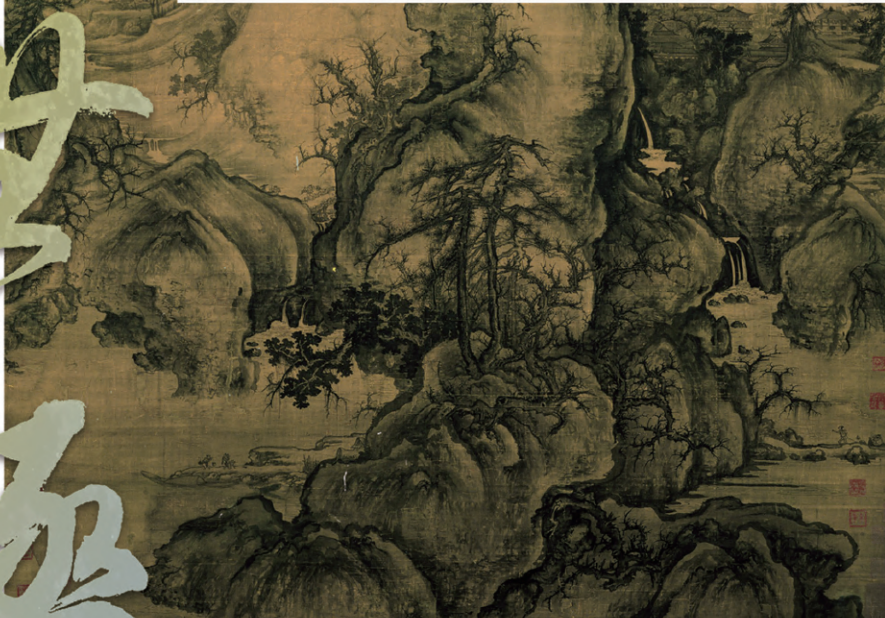
SCIENCE AND ART:
CALLIGRAPHY WITHOUT BOUNDARIES

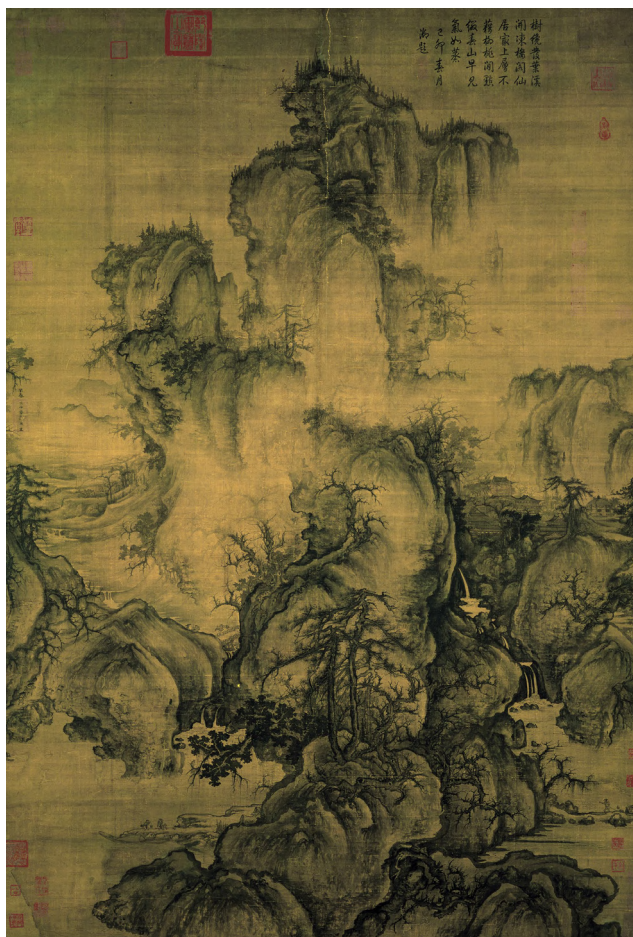
春
墨
無
極



2022年中日青年學生書法作品聯展（香港）

Calligraphy Artworks
from Japanese and Chinese students,
Hong Kong 2022





宋 西元 960-1279

郭熙

早春圖

臺北故宮博物院典藏

四國大學與香港城市大學交流書法展祝辭

集古學社社長 鄭 培凱教授

《春墨無極》是這次中日青年學生書法作品聯展的名稱，定於一月末舉行，正是立春之際，點出「春天的墨跡」為主題，正好進行書法創作與文化交流。「無極」二字是展覽的願景：希望這是一次跨越國界，學科，以及個人創作差異的文化交流活動，讓更多人有機會參與其中。

本次展覽亮點之一是「跨越學科」：參展的同學擁有多樣的學科背景，包含 10 個學系之多。這也是一次跨國界的藝術與文學交流活動，共展出了 45 幅書法作品。展覽顯示了東亞文化交流的歷史淵源，作品有取自中國《四庫全書》的，有來自中國歷代著名碑帖的，還有取材自日本的短歌「鑑真的月」；此外，也有取材自《韓國歷代文籍叢書》。

自古以來，中日文化交流不斷，所謂「山川異域，風月同天，寄諸佛子，共結來緣」，就是文字結緣的見證。

全球疫情讓文化交流遭遇了從未料到的挑戰。在這樣的時刻，更需要我們牽起手來，尋找創新方式，弘揚傳統文化與促進社區共融。本次展覽便是這樣的嘗試：希望能讓書法藝術作為文化傳播的媒介與活化經典文學的方式，讓更多人藉此親近，並得以傳承。我們也期盼來自中日兩地的學子，能借書法交流，加深彼此的瞭解，延續中日書法傳承的文化情誼。

四国大学と香港城市大学交流書道展祝辞

集古学社社長 鄭培凱教授

「春墨無極」は今回の中日青年学生書道作品展の名称で、一月末に開催されることになっている。立春にあたり、「春の墨迹」をテーマに、書道の創作と文化交流を行う。「無極」の二文字は展覧会のビジョンである。これが国境、学科、個人の創作の違いを越えた文化交流活動であり、より多くの人に参加する機会になることを願っている。

この展覧会の注目点の一つは「学際横断」である。参加する学生は多様な学際背景を持ち、二〇の学科を含む。これは国境を越えた芸術と文学の交流イベントでもあり、六の書道作品が展示されている。展覧会は東アジア文化交流の歴史的淵源を示している。作品は中国の『四庫全書』から採られたもの、中国歴代の著名な碑帖から採られたもの、また日本の短歌「鑑真の月」から取材したものがある。また、『韓国歴代文献叢書』からの取材もある。

古来、中日の文化交流は絶えず、いわゆる「山川異境、風月同天、諸仏子を寄せて、共に縁を結びに来る」は、文字が縁を結ぶ証しである。

新型コロナウイルスの世界的な流行は文化交流を予想もしなかった試練に直面させている。このような時こそ、私たちは手をつなぎ、革新的な方法を探し、伝統文化を発揚し、コミュニティの協力を促進する必要がある。この展覧会は、書道が文化を伝える媒体として、古典文学を活性化する手段として、多くの人に親しみを持ってもらい、継承していく試みである。私達も中日両地の学生から来ることを望んで、書道の交流を借りて、お互いの理解を深めて、中日の書道の伝承の文化の情誼を継続します。

翻譯：郭鐘蔚 顧心怡

香港城市大学と四国大学との交流書道展開催に寄せて

、 香港城市大学景祥祐（ステイブ・チン）先生とのご縁について 、

真言宗御室派願成寺住職 大西 智城

ステイブ・チン先生、太田剛教授を始め香港城市大学、四国大学の関係者の皆様方、香港城市大学と四国大学の交流書道展開催、誠にめでとうございます。コロナ禍により様々なイベントや交流会が延期、中止となるなか、このような国を超えての交流書道展を開催していたことに、誠に感謝申し上げます。

二〇一四年十二月、「文化財の保護と管理」をテーマに香港城市大学で国際会議が開催されました。私は当時、京都仁和寺で財務部長として文化財の管理を担っていたことから、京都大学井出亜里教授（イラン出身）からお誘いを受け、「仁和寺の文化財の保護と管理について」発表させていただいたことが、ステイブ先生とのご縁の始まりでした。

その国際会議において、ステイブ先生から突然大勢いる中で筆での揮毫を求められ、同行していた妻と二人で大変緊張しながらも、なんとか書きあげました。その後、「般若心経」を書いて欲しいと依頼され、依頼を受けた妻は半年をかけ完成し、京都で無事お渡しすることができました。今も、ステイブ先生はこの「般若心経」でご先祖の供養を行っていると聞いております。

また、徳島に來られた時には四国八十八か所参りにご関心を示され、一番札所から五番札所までご案内したところ、日本の古き文化に触れ大変お喜びいただきました。

このような交流を続ける中で、ステイブ先生から書道で日本の大学と交流をしたいとのお話があり、四国大学書道文化学科の太田教授にお願いした次第です。ステイブ先生の書にかける情熱や、太田教授の多大なるご尽力により、両校の交流書道展が開催に至ったことは、誠に喜ばしいことであります。

仏教では「縁」や「和顔（笑顔）」の大切さを説きます。「縁を生かして、笑顔に繋げる」よう、この度の香港城市大学と四国大学とのご縁により、学生の交流・相互理解が深まり、両国の笑顔に繋がることを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

香港城市大學與四國大學舉辦交流書法展寄語

真言宗禦室派願成寺住持大西智城

景教授、太田剛教授以及香港城市大學、四國大學的相關人士，衷心祝賀香港城市大學和四國大學舉辦交流書法展。在因新冠疫情，各種各樣的活動和交流會延期、中止的情況下，我們對您舉辦這種跨國家的交流書法展表示衷心的感謝。

2014年12月，「東亞文獻保存修復和價值呈現」現代技術的應用——專題講座與工作坊在香港城市大學舉行。我當時在京都仁和寺，財務部長作為文化遺產的管理，從京都大學井出亞里教授開始接受邀請，以“仁和寺的文化遺產的保護和管理問題”發表了專題報告，景教授和我緣分的開始。

在那次國際會議上邀請嘉賓以毛筆揮毫留念，我和同行的妻子雖然感到緊張，但還是勉強完成了。後來，他委託我的妻子寫《摩訶般若心經》，我的妻子接受了他的委託，花了半年時間完成了《摩訶般若心經》，並在京都順利地交給了景教授。我聽說他以這個《摩訶般若心經》而供養祖先。

另外，來德島的時候，對四國88所與弘法大師（空海）有淵源的寺廟感到好奇，我們參訪了5所寺院（一號到五號），接觸到了日本的古老文化，非常高興。

在這樣的交流中，景教授說想在書法方面與日本的大學進行交流，於

是我就拜託了四國大學書法文化學科的太田教授。在景教授對書法的熱情和太田教授的大力支持下，兩校的交流書法展得以舉辦，實在令人高興。

佛教強調“緣分”和“和顏”的重要性。“讓緣分延續，讓笑容延續”，希望香港城市大學和日本四國大學能夠通過這次的因緣，加深學生之間的交流和相互理解，讓兩國的笑容能延續下去。

翻譯：郭鐘蔚 顧心怡

香港城市大学と四国大学の交流書道展開催に寄せて

四国大学文学部書道文化学科教授・同大学院文学研究科長 太田 剛

今から一年以上前、徳島市の願成寺の大西智城住職から、私に連絡がありました。大西住職は徳島県の実言宗を代表する名僧で、徳島市の文化・福祉活動に熱心に取り組まれ、四国大学の書道文化学会で講演をさせていただいたこともある方です。住職がかつて香港城市大学で真言宗に関する講演をされた際に知り合ったのが、その大学の図書館特別顧問の景祥祐（ステイプ・チン）先生です。大西住職からステイプ先生を紹介され、先生からは、香港城市大学の学生の書道作品を四国大学で展示し、学生同士の交流もしたいとの申し出を受けました。

興味深い企画でしたがその年は実施できず、二〇二一年の十一月二十六日（金）～二十八日（日）の、四国大学「芳藍書道展」に合わせ、香港城市大学から十二点の軸作品を送っていただき、四国大学の作品と一緒に展示いたしました。また二十八日（日）の午後には「四国大学書道文化学会」が、コロナ禍のため Zoom による遠隔形式で実施され、香港城市大学の四名の学生がパワーポイントで各自の作品紹介をし、本学の学生たちに大きな刺激を与えてくれました。その際には、四国大学大学院文学研究科修士で中国語に堪能な渡邊浩樹君に通訳をお願いしました。

その後、芳藍書道展に展示済みの本学書道文化学科の一～三年生の学生の作品二十四点を選抜し、うち十二点の実物と、二十四点の作品写真およびキャプションデータを香港城市大学に送りました。その後十二点の実物展示と二十四点の作品展示を併用して展示をしていただき、二〇二二年一月十八日（火）の午後には、四国大学の代表学生六名が各自の作品紹介を Zoom にて実施し、香港城市大学の学生達とも交流することになりました。この際には渡邊浩樹君と本学国際課の金睿さんに通訳をお願いすることになっていました。

この間に、ステイプ先生からはメールにて多くの細かい指示連絡をいただき、会場準備などに精力的に動いてくださいました。その強い情熱にはとても感心しています。このような企画が両国の学生の視野を広げ、未来に書道文化をさらに発展させることにつながるでしょう。まずはその第一歩を踏み出したと考えています。それをお祝いし、両大学内外の関係者の皆様の努力に感謝いたします。

香港城市大學與四國大學交流書法展祝辭

四國大學文學部書法文化學科教授・同大學院文學研究科科長

太田剛

一年多前，德島市願成寺的大西智城住持與我聯繫。大西住持是德島縣真言宗的代表名僧，熱心於德島市的文化福利活動，還曾應邀在四國大學的書法文化學會演講。住持於二零一四年在香港城市大學做關於「東亞文獻保存修復和價值呈現」現代技術的應用—專題講座與工作坊時認識了香港城市大學圖書館的特別顧問景祥祐教授。大西主持向我介紹了景教授，他提出想把香港城市大學學生的書法作品帶到四國大學展出，讓學生們進行交流。

這個有趣的計劃在那一年是無法實施的，直到2021年11月26日（星期五）~28日（星期日），四國大學舉辦“芳藍書法展”，香港城市大學將十二份作品寄給我與四國大學的作品一起公開展示。另外28日（日）下午“四國大學書法文化學會”因為疫情的原因只能以zoom的在線會議，香港城市大學的四名學生在文稿展示中介紹本校學生的作品。當時，我們請了四國大學研究生院文學研究科的畢業生、精通中文的渡邊浩樹擔任翻譯。

之後，我們從本校芳藍書法展上展出的書法文化專業一至三年級學生的24幅作品中選出12幅實物、24幅作品圖片及說明資料，發送給香港城市大學的景教授。此後12幅實物展示和24份的圖片於2022年1月18日（星期二）下午，由四國大學的6名學生代表將在zoom會議上進行講解，也將和香港城市大學的學生們進行書法交流。屆時

渡邊浩樹和本校國際課職員金睿先生將擔任翻譯。

在此期間，景教授給了我很多建議，讓我精力充沛地準備會場。我很佩服景教授那種強烈的熱情。這樣的規劃將會拓寬兩國學生的視野，促進書法文化在未來的進一步發展。我認為首先是邁出了第一步。我對此表示祝賀，並對兩所大學內外的相關人士的努力表示感謝。

翻譯：郭鐘蔚 顧心怡

科學與藝術：春墨無極

日本四國大學與香港城市大學學生線上書法交流會

日期和時間：2022 年 1 月 18 日 (星期二) 15:20-16:50 (香港時間) / 16:20-17:50 (日本時間)

Zoom Meeting 鏈接: <https://cityu.zoom.us/j/96551877850?pwd=MHo4TzF0T3RXRVd4NHdzV1BxRXhwdz09>

Meeting ID: 965 5187 7850

Password: 461882

時間	活動
15:20-15:25	主持人 香港城市大學 翻譯及語言學系 李 博潤
15:25-15:30	四國大學 文學部書法文化學科教授 太田 剛致辭
15:30-15:40	朗誦與中樂演奏<定風波> 古箏 香港城市大學材料科學與工程學院 魯 馨雅 二胡 香港城市大學法學院 陳 亦泓 朗誦 香港城市大學電腦金融專業 張 悅楊
15:40-15:45	《展覽介紹》 香港城市大學 商業分析專業 黃 秀祺
15:45-15:50	《楊堤臨 西藏華山廟碑 的臨書作品》 四國大學 書道文化學科 水澤 一暢
15:55-16:00	《行草書創作 張籍詩 涼州詞三首》 四國大學 書道文化學科 寺澤 步花
16:00-16:05	《楷書創作作品》 四國大學 書道文化學科 松本 奈菜花
16:05-16:10	《趙之琛 篆刻作品 模刻六種》 四國大學 書道文化學科 麻植 柚花
16:10-16:15	《芳藍書法展作品 假名(創作) ~百人一首之四首~》 四國大學 書道文化學科 元木 紀世美
16:15-16:20	《漢字假名混雜文 創作作品 淺野浩的詩 》 四國大學 書道文化學科 桃田 葵
16:20-16:25	《我的創作故事 夜舟行》 香港城市大學 計算數學專業 馬 佳昕
16:25-16:30	《我的創作故事 春晚》 香港城市大學 環球商業專業 謝 一銘
16:30-16:40	現場書畫分享 《牧隱詩叢卷之七》<詠梅> 香港城市大學 能源與環境學院 藍 清陽作畫 香港城市大學校書法保育研習實踐項目導師王 瑋樂題詞
16:40-16:45	香港城市大學圖書館特別顧問景 祥祐總結
16:45-16:50	Q & A

召集人：四國大學 文學部書法文化學科教授 太田 剛/香港城市大學 邵逸夫圖書館特別顧問 景 祥祐

日文翻譯：香港城市大學 金融系 顧 心怡/翻譯及語言學系 郭 鐘蔚

中文翻譯：四國大學 書道文化學科 渡邊 浩樹/國際科職員 金 睿

策展人的話

據載，長屋王曾將繡有“山川異域，風月同天，寄諸佛子，共結來緣”四句偈文的千件袈裟贈予唐朝僧侶以求傳統佛法。當時鑒真和尚亦為此所動，並在回應入唐僧東渡弘法請求時提到。後來，其東渡之旅成為中日文化交流的里程碑式的事件。偈文中超越國界，天下大同的思想更是為後人稱道。

【科學與藝術：春墨無極】展覽緣起 2017 年揚州《東征傳繪卷》的考察之行。中日學者一同訪問這座鑒真出生、生活的城市。他們從大明寺的鑒真圖書館（由星雲大師捐建）出發，重游當年鑒真出家的祖壇與瘦西湖。在此途中，日本高僧大西智城以‘鑒真東渡’的故事為創作背景，創作了名為‘鑒真的月’的短歌，以此見證中日千年不息的文化交流與真摯情誼。

五年倏忽已過，期間世界變遷劇烈，疫情更是讓文化交流事業遭遇了從未預想的挑戰。在這樣的時刻更需要我們牽起手來，尋找創新方式弘揚傳統文化與促進社區共融。本次展覽便為這樣的嘗試：希望能讓書法藝術作為文化傳播的媒介與活化經典文學的方式之一，被更多人看見，並得以傳承。同時，我們也期盼來自中日兩地的學子能借書法傳情，加深彼此的瞭解，延續中日這番動人的文化情誼。

本次展覽由四國大學文學部書道文化學科、香港城市大學學生書法學會墨袖齋組織，集古學社、香港城市大學環球管理處、香港城市大學邵逸夫圖書館書法傳承與互聯項目組支持。通過本次活動，我們意在創建一個開放互融的文化環境，讓來自不同國家、不同學科背景的學生能夠共同學習傳統古籍、交流心得，並將自己的感想與理解融匯到書法創作過程中。

展覽將於2022年1月17日至1月21日（共五天）在香港城市大學楊建文學術樓紫區舉辦，共展出了45幅書法作品。香港城市大學共展出21幅作品：1幅取材自大西智城和大西順子的短歌；15幅取材自中國《四庫全書》或文學作品；5幅取材自《韓國歷代文籍叢書》。日本四國大學共展出24幅作品：18幅作品取材自中國名碑帖和文學作品；6幅作品取材自日本文學作品。

【無極】二字貫穿活動始末。我們想要跨越國界，學科，甚至是個體差異的藩籬，讓更多人參與到展覽當中。

參與者擁有多樣的學科背景，囊括書道（書法）、電機工程、電腦科學、數學、傳播與媒體、中文與歷史、會計、經濟與金融。

本次展覽亦是一次跨國界的文學交流，學生以書法形式抒發心中所悟。作品取材廣泛：會計專業校友王瑋樂以《鑑真的月》為創作背景；書道專業學生水澤一暢臨摹清代楊峴隸書節臨《西嶽華山廟碑》的書帖；商業分析專業學生黃秀祺從韓國詩人徐居正的《春望》汲取零感。

香港城市大學學生用中國地方方言朗誦書法作品，使視障人士也能欣賞到傳統古籍之美，體現了「多元與共融」的主題。

春和景明時，願與卿相會，我們期望大家能盡情地享受本次展覽。最後，向為作品展出以及展覽策劃付出巨大努力的有關人士致以最誠摯的感謝。

會計系校友
龍門對

王瑋樂

「鑒真的月」

るのみ
智城作詩於大明寺
老みと涙をながし祈りあ
鑑真のながめし月を我



* 背景圖畫為《東征傳繪卷》 現藏於日本奈良唐招提寺



望月や心をむらき遠き
道鑑真さがす友好の旅
順子作詩於大明寺

日本四國大學作品

2022年1月 香港城市大学にて展示予定の四国大学書道文化学科学学生作品

2021.12.20

四国大学文学部書道文化学科

大 作 品 （ デ ィ タ の み 送 付 ）	番	学年	氏名	日本語よみ	ローマ字	作品名	書体
	1	3	鶴田 光平	おしだ こうへい	Oshida Kohei	臨 魏靈藏造像記	楷書
	2	3	麻植 元明	おえ げんめい	Oe Genmei	自作詩「大地の演舞」	漢字仮名交じり文
	3	3	河野 幸太	こうの こうた	Kono Kota	臨 杜家立成雜書要略	行書
	4	3	白石 瑞帆	しらいし みずほ	Shiraisi Mizuho	杜甫詩	隸書
	5	3	祖月輪 音々	そがわ ねね	Sogawa Nene	自作詩「秋風」	漢字仮名交じり文
	6	3	寺澤 歩花	てらざわ あゆか	Tearazawa Ayuka	張籍詩「涼州詞三首」	行草書
	7	3	桃田 葵	ももた あおい	Momota Aoi	浅野浩の詩	漢字仮名交じり文
	8	3	山下 歌茄	やました かな	Yamashita Kana	臨 吳昌碩詩稿	行草書
	9	3	元木 紀世美	もとき きよみ	Motoki Kiyomi	『百人一首』より四首	仮名
	10	2	上里 美貴	うえざと みき	Uezato Miki	楊炯詩「從軍行」	行草書
	11	2	中村 華奈	なかむら かな	Nakamura Kana	臨 吳昌碩書	行書
	12	2	丸野 真愛	まるの まあい	Maruno Maai	臨 趙之謙書	篆書

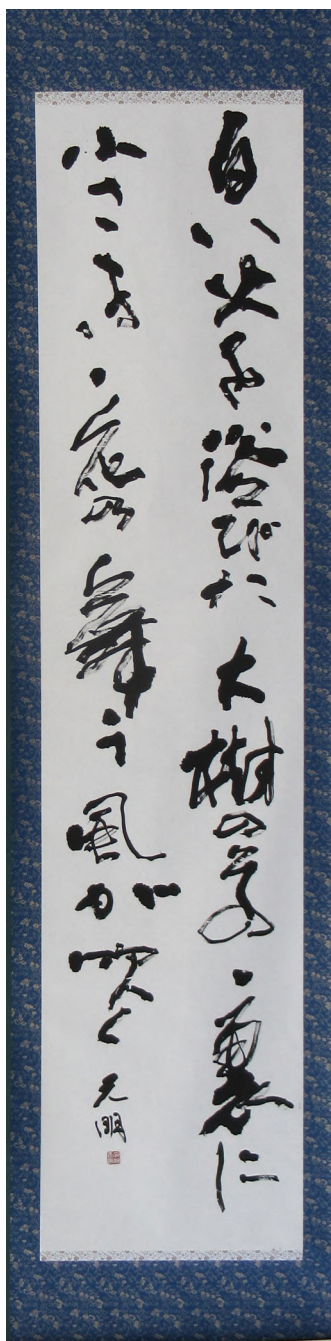
小 作 品 （ 作 品 を 送 付 ）	番	学年	氏名	日本語よみ	ローマ字	作品名	書体
	13	3	安部 良夢	あべ らむ	Abe Ramu	吳閨雪詩	楷書
	14	3	小林 茉祐奈	こばやし まゆな	Kobayashi Mayuna	王維詩「山居秋暝」	行草書
	15	3	松本 奈菜花	まつもと ななは	Matsumoto Nanaha	杜甫詩「春歸」	楷書
	16	2	麻植 柚花	おえ ゆずか	Oe Yuzuka	模刻 六種	篆刻
	17	2	加藤 史也	かとう ふみや	Kato Humiya	赤田臥牛の詩	行草書
	18	2	水澤 一暢	みずさわ いよ	Mizusawa Iyo	臨 楊峴臨・西嶽華山廟碑	隸書
	19	1	伊賀上 伸悟	いがうえ しんご	Igaue Shingo	模刻 趙之謙と趙時桐の印	篆刻
	20	1	大内 涼音	おおうち すずね	Ouchi Suzune	臨 蔡經文稿	行草書
	21	1	奥村 妙	おくむら たえ	Okumura Tae	臨 美人董氏墓誌銘	楷書
	22	1	春 りりか	はる りりか	Haru Ririka	臨 大鐸臨王漁之帖	行草書
	23	1	溝上 結衣	みぞかみ ゆい	Mizokami Yui	『古今和歌集』より一首	仮名
	24	1	山田 珠里	やまだ じゅり	Yamada Juri	臨 離洛帖	行草書

感想	釈文	題	学年
今回、私は魏靈藏造像記を臨書しました。この古典は高校時代によく臨書したもので、三年生になった今、初心に立ち返ろうと思い選びました。造像記の特徴である鋭い筆画、力強い線質を再度意識しながら臨書しました。よろしければ是非ご覧ください。	夫靈跡誕邁。必表光大之迹。玄功既敷。亦標希世之作。自雙林改照。大千懷綴暎之悲。慧日潜暉。哈生銜道慕之痛。是以	臨 魏靈藏造像記	三
			名前
			鴛田 光平

夫靈跡誕邁必表光大之迹玄功既敷亦
 樹希世之作自雙林改大千懷綴嘆之悲
 慧曰潛暉哈生銜道慕之應是以

光平臨

感想	积文	題	学年
感想 め、余白のあるさわやかな線を目指しました。王羲之を中心とした基本的な行書、草書を用いて、読みやすかつ、平仮名とよく調和し、美しい筆脈等の流れを出すことに気をつけて制作しました。	白い火を浴びた大樹のその裏に 小さき花の舞う風が吹く	大地の演舞	三
			名前
			麻植 元明



感想	釈文	題	学年
光明皇后の杜家立成雑書要略を臨書しました。この古典は、全体的に前傾の姿勢で、右下への線が強く豊かな字姿をしている所が特徴です。それらの特徴を意識しつつ、文字の大小、線の太細等を上下左右の文字と調和するように紙面に配字しました。筆は柔らかい羊毛筆を用いました。	参。謹環無述。同學從征不得執別與書 弟機謀内發。奇略外聞。舞弄長戈。 棄投短筆。希横虚之陣。旗鼓	杜家立成雑書要略	三
			名前
			河野幸太

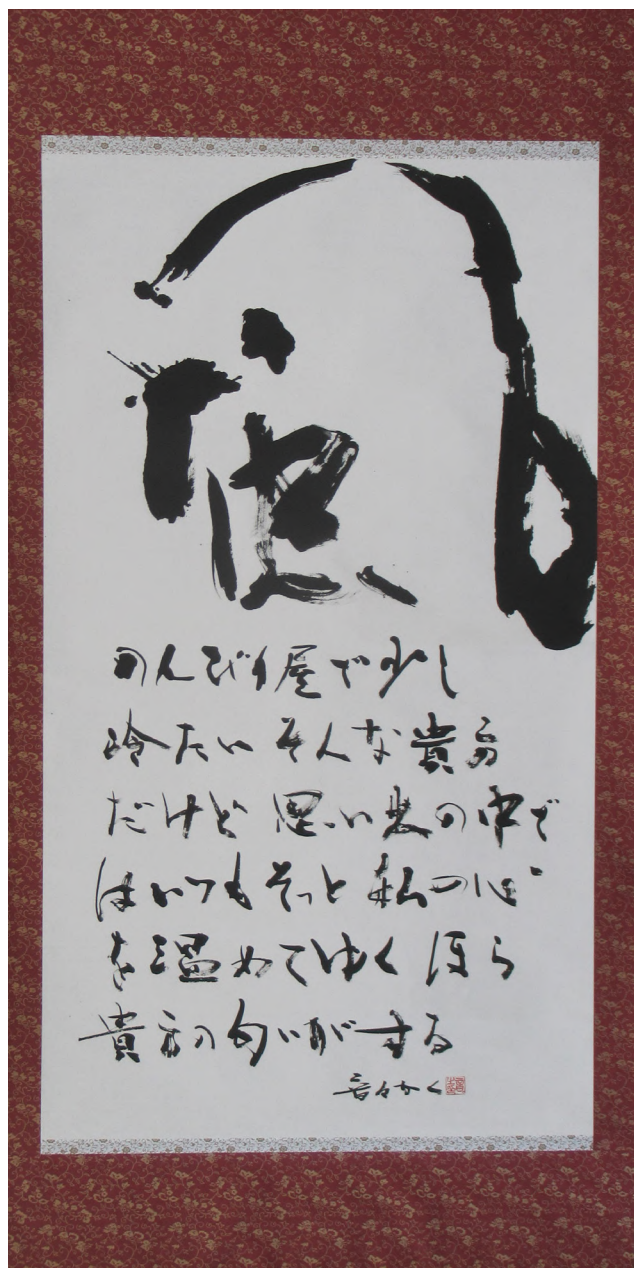
恭謹還書述同學從延不得執別書
 弟機謀內者奇略外聞舞弄長安
 棄投握筆布橫虛之陣旗鼓幸處

感想	釈文	題	学年
鄧石如の書風を基盤に、杜甫の「野人送朱櫻」という詩を隷書で書きました。自分の課題である筆の穂先を使った運筆を意識し、安定感がありながらもスッキリとした線を心がけました。字幅がところどころバラバラになっており、行間がきれいに見えなかったので次注意したいです。	西蜀櫻桃也自紅。野人相贈滿筠籠。數回細寫愁 仍破。萬顆勻圓訝許同。憶昨賜露門下省。退朝擎 出大明宮。金盤玉筋無消息。此日嘗新任轉蓬。	杜甫詩	三
			名前
			白石 瑞帆

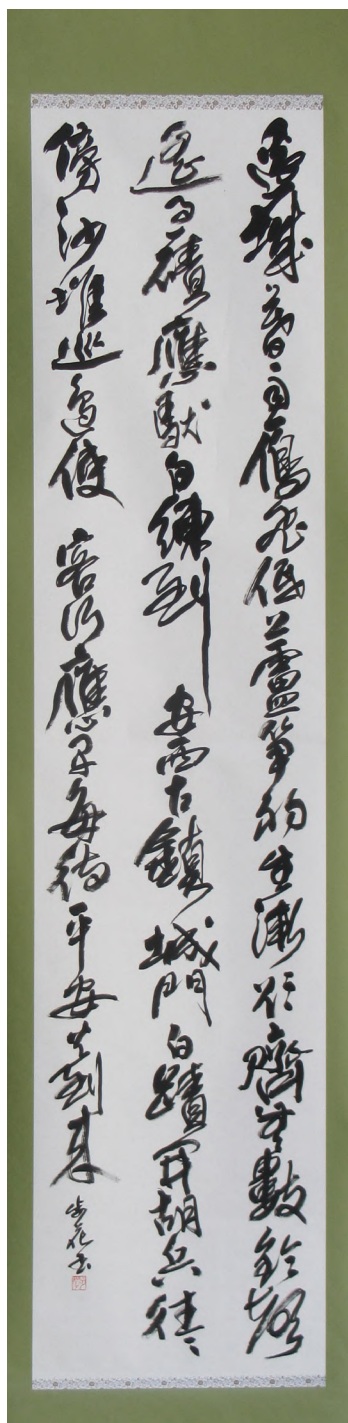
西蜀櫻桃色自紅
 堅人相贈滿筠籠
 數回細寫愁
 仍破萬顆勻圓訝
 許同憶昨賜露門
 下省退朝擎
 出大明宮金盤玉
 鼓無消息此日嘗
 新任轉蓬

瑞誠立

感想	釈文	題	学年
例年より到来の遅かった秋を人にとえながら、秋の思い出を自作の詩で綴りました。秋は風が冷たくてあまり好きな季節ではありません。しかし私の中には、芳藍祭でのパフォーマンス練習に明け暮れた楽しい青春の日々で溢れていて、そつと私に心を温めてくれるのです。	風 のんびり屋で少し冷たい。そんな貴方だけど、思い出の中ではいつもそつと私の心を温めてゆく。ほら貴方の匂いがする。	秋風	二
			名前
			祖月輪音々



感想	釈文	題	学年
今回は、二八に三行創作しました。行間をスッキリみせながらも動きを大きく見せることを工夫しました。墨の潤渇も、遠くから見て立体感のある作品になるように意識しました。書いていて楽しいと思えたので、筆の動きが最初に比べて大きくなったのではないかと思います。	邊城暮雨鴈飛低。蘆笋初生漸欲齋。無數鈴聲遙過磧。應馱白練到安西。 古鎮城門白磧開。胡兵徃徃傍沙堆。巡邊使客行應早。每待平安火到來。	涼州詞三首	三
			名前
			寺澤 歩花



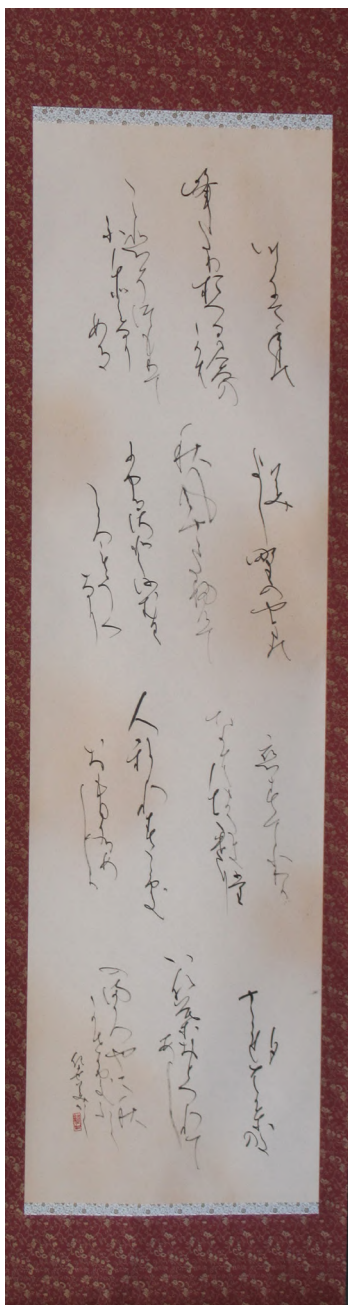
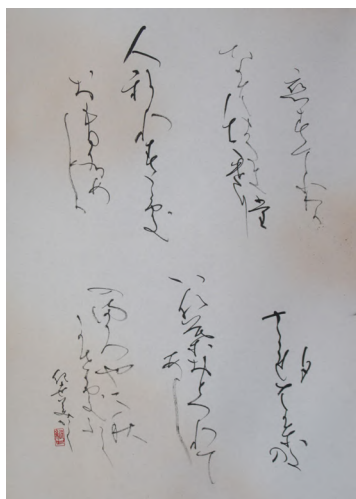
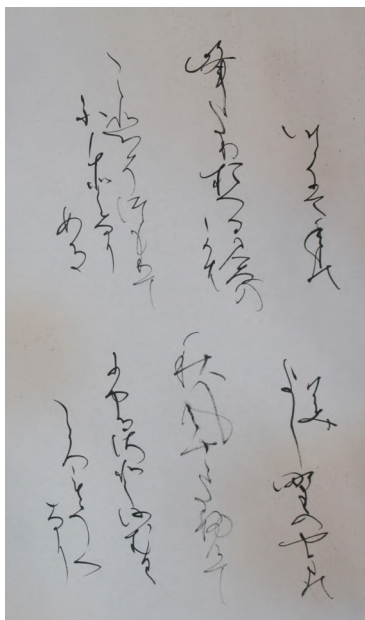
感想	訳文	題	学年
今回、浅野浩の詩を書きました。この詩文を選んだ理由としては、漢字、カタカナ、ひらがな、それぞれの躍動感を味わってほしいのと「魂のバリケード」とは何か、見る人によって捉え方は様々だと思うのでその考え方の違いを楽しんでいただけると幸いです。	魂のバリケードを張り巡らせ眼底に沈黙した影	浅野浩の詩	三
			名前
			桃田 葵



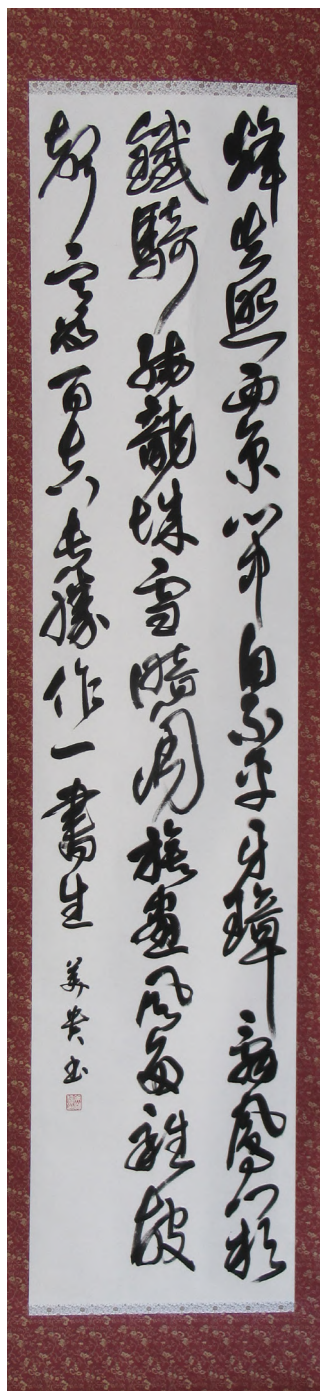
感想	釈文	題	学年
呉昌碩の行草書を臨書しました。これまで呉昌碩の行草書を臨書していく中で、右上がりが強すぎるという課題に直面しました。今回の作品制作では課題に直面したことを改善し、作品制作に生かしました。一つ一つの線が強く逞しく生きているような作品になるよう心がけました。	海上春風解溫袍。一腔哀怨抱離騷。乾坤到處詩羈滯。 腸腹經年酒洗淘。醉聽談鋒蘇疾疾。老從心地拔蓬蒿。 商量一棹逢漁父。更訪仙源洞口桃。	臨呉昌碩詩稿	三
			名前
			山下 歌茄

海上今解渾花腔
 懸崖懸壺
 乾坤列
 文萬物
 勝勝經
 連統
 海陸
 神話
 龍
 龍
 先
 以天地
 按運
 著
 肩
 重
 極
 連
 源
 耳
 更
 初
 深
 洞
 氣
 取
 常
 修

感想	釈文	題	学年
この作品の二首目と四首目には同じ「秋風」という言葉があります。同じ「秋風」でも、寒々とした寂しい様子と稲穂にそよぐ爽やかな様子とで情景が大きく異なります。そのような異なる情景を行の配置や文字の造形、墨の潤渾に変化をつけて表現することを意識して書きました。	筑波嶺の峰より落つる男女恋ぞつもりて淵となりぬる み吉野の山の秋風さ夜更けてふるさと寒く衣うつなり 恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか 夕されば門田の稲葉おとづれて芦のまろやに秋風ぞ吹く	百人一首より四首	三
			名前
			元木 紀世美



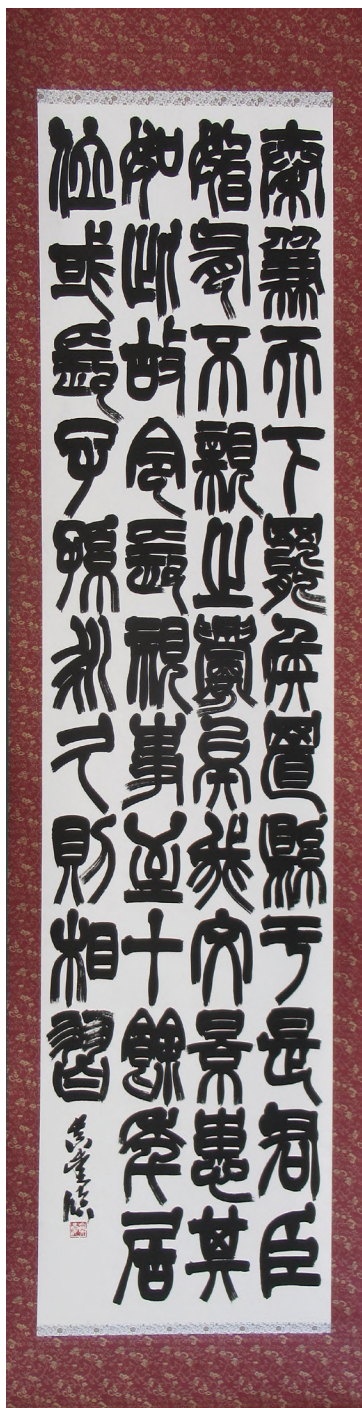
感想	釈文	題	学年
楊炯の詩を創作しました。王鐸をはじめ明清の行草を基盤とし太細や潤渴、作品の見せ場となる部分を大胆に表現できるように意識して制作に臨みました。線の変化や文字の疎密の変化など作品制作にあたり、自分の課題が明確になったので、次の制作に生かしたいと思います。	烽火照西京 心中自不平 牙璋辭鳳闕 鐵騎繞龍城 雪暗凋旗畫 風多雜鼓聲 寧為百夫長 勝作一書生	楊炯詩「從軍行」	二
			名前
			上里美貴



感想	积文	題	学年
普段は北魏楷書を基盤とした作品を制作していますが、この機会に違う書体にも挑戦しようと思い、呉昌碩の臨書に取り組みました。晩年の呉昌碩の行書作品に見られる安定した骨格や金石の影響のある力強い直線的な線などを書く際に留意したものの、臨書の難しさを痛感する制作でした。	城北識徐公。飛仙謫飲中。論交秋水外。高唱大江東。 書讀療飢蠹。梅呿不霽虹。可言墮餘響。鐘呂聽云同。	臨 呉昌碩書	二
			名前
			中村 華菜

堪北後徐公仙讀飲巾
 海交社外
 高留大深處
 漢撫風雲
 林可名
 紅可言隨
 解響鐘呂
 社云同
 華春

感想	釈文	題	学年
今までは呉讓之の臨書をしていましたが、趙之謙のような重厚感のある小篆を書いてみたいと思います。今回挑戦しました。趙之謙の特徴ある起筆や字形などを表現しつつ、全体的に重くなりすぎないように掠れを入れました。今後は創作作品にも反映させていけたら良いなと思います。	秦兼天下罷 侯置縣于是君臣 始有不親之釁矣 我文景患其如此 故令長視事至十 餘年居位或長子 孫永久則相習	臨 趙之謙	二
			名前
			丸野 真愛

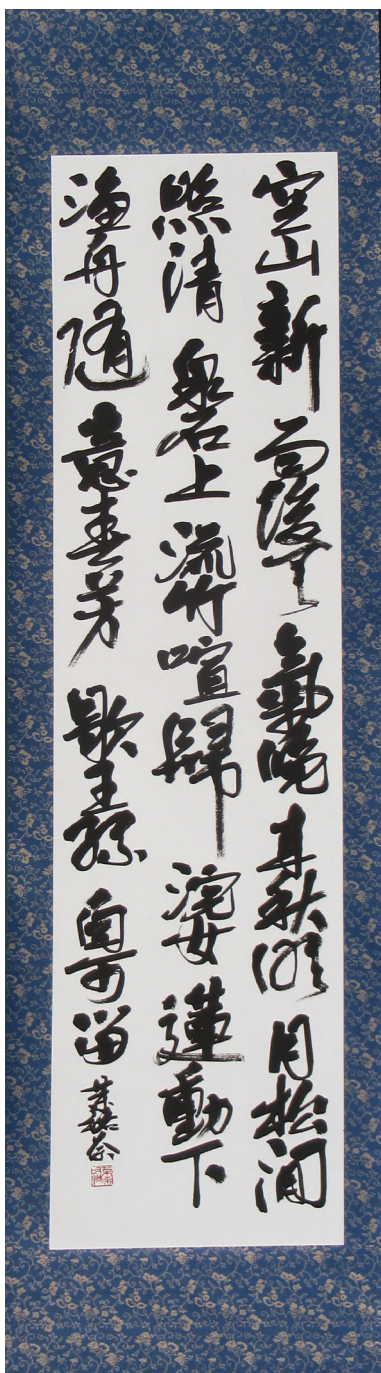


感想	釈文	題	学年
今回、この作品を書くに当たって気をつけたところは、楷書と行書の書き分け。楷書は力強い造像記を、行書は楷書にマツチするようにイメージして書いた。筆は高校時代に使っていたものを用いて、その理由としては使い勝手が良いということと、書きやすく大学生の今でも愛用しているからである。	聲煮石銚 明月依然似昨宵白鷗導我過 溪橋貪看松影移冰簾細聽茶 衣上洞宝 菖笛 風暮又菖々一竿便 有江湖興漁兄久	呉蘭雪詩	三
			名前
			安部 良夢

明月依然似昨宵
白鷗導我過溪橋
貪看松影移水筆
細聽茶聲煮石鉚

夜已闌寂然無聲
風柔又第二竿燈
有江湖興漁兄久
忘 吳蘭雪詩 良夢司

感想	釈文	題	学年
王維の詩を創作した。呉昌碩を基盤に古典の雰囲気を残しながら、作品としてまとめ上げること意識し制作をした。書き込みが足りず反省点も多く残るが、これを生かし今後の作品制作に繋げたい。また、秋の清らかな山中の景色を描いた詩文を楽しみながら臨んだ。	空山新雨後 天氣晚來秋 明月松間照 清泉石上流 竹喧歸浣女 蓮動下漁舟 隨意春芳歇 王孫自可留	王維詩「山居秋暝」	三
			名前
			小林茉祐奈

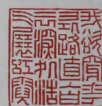
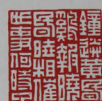


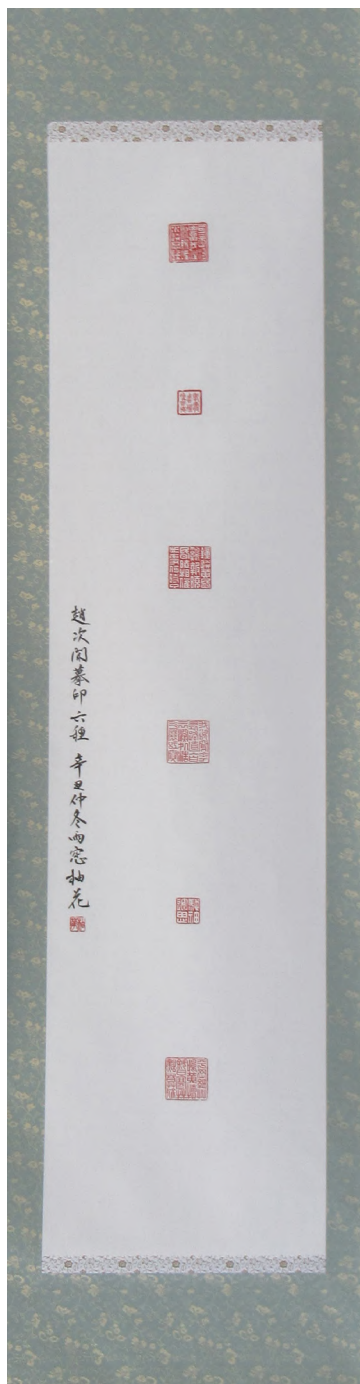
感想	积文	題	学年
杜甫の「春歸」という詩を北魏時代（三八六～五三四年）の楷書を基盤に創作しました。北魏楷書の特徴である正方形の字形や芯のある安定した線を意識して書きました。工夫した点は、躍動感を持たせるために渴筆を含ませた事と作品全体に重量感を出すために文字重心を低くした揃えたところ です。	別來頻甲子 歸到忽春華 倚杖看弧石 傾壺就淺沙 遠鷗浮水靜 輕燕受風斜 世路雖多梗 吾生亦有涯	杜甫詩「春歸」	三
			名前
			松本 奈菜花

別來頻甲子歸到忽春華
倚杖看孤石傾崖歎淺沙
遠鷗浮水靜輕燕受風斜
世路雖多梗吾生尔有涯

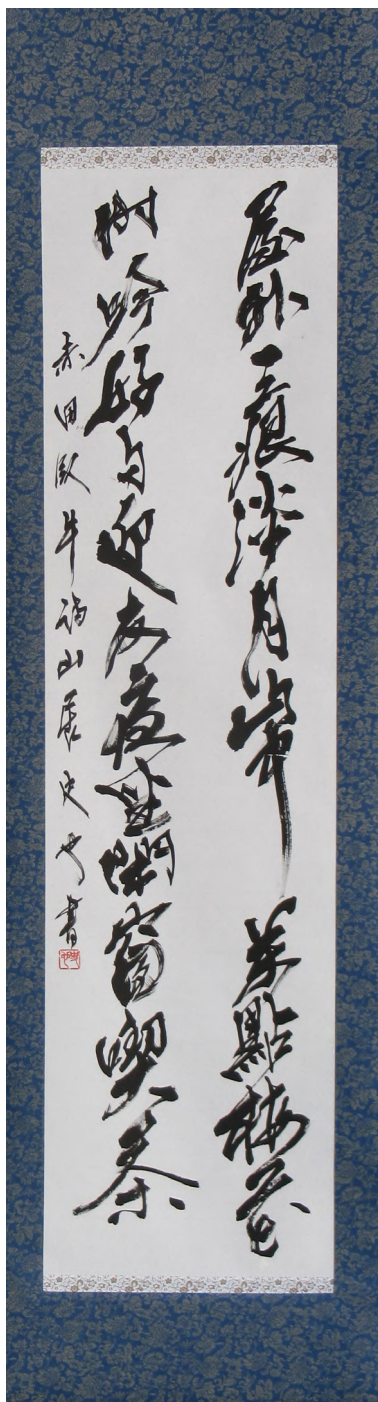
夢溪苑

感想	积文	題	学年
初めて半切に六種の印を刻しました。西冷後八家の一人である趙之琛を選びました。鋭い線と柔らかい線があったので違いがでるように意識して刻しました。一つ一つの作品の雰囲気異なるのでそこにも注意しました。今回の模刻を元に創作を作りたいです。	可意湖山留我住 斷腸煙水送君歸 孝敬忠信爲吉德 鐘送黃昏雞報曉 相催世事何時了 我欲穿華尋路直 入白衣深處浩氣展 虹霓 馳神運思 平岡細艸鳴黃犢 斜日寒林點暮雅	模刻 六種	二
			名前
			麻植 柚花

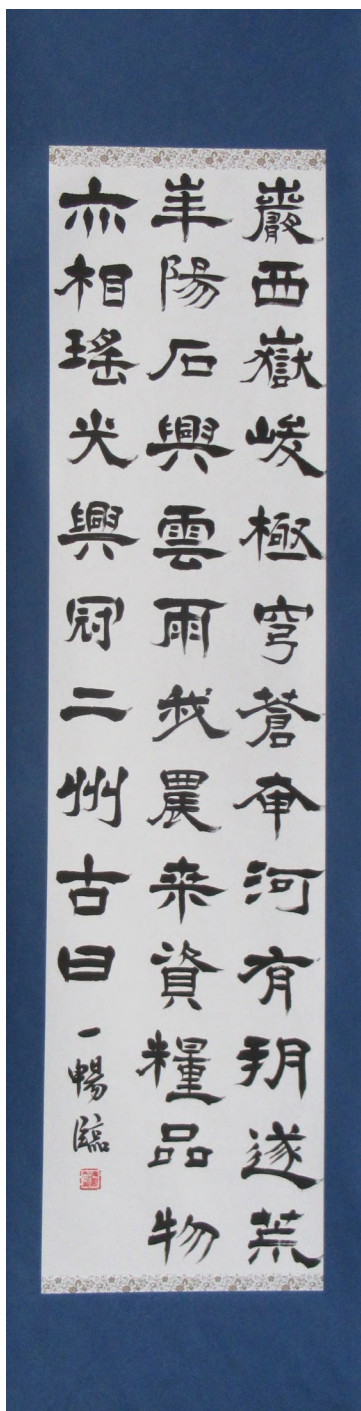




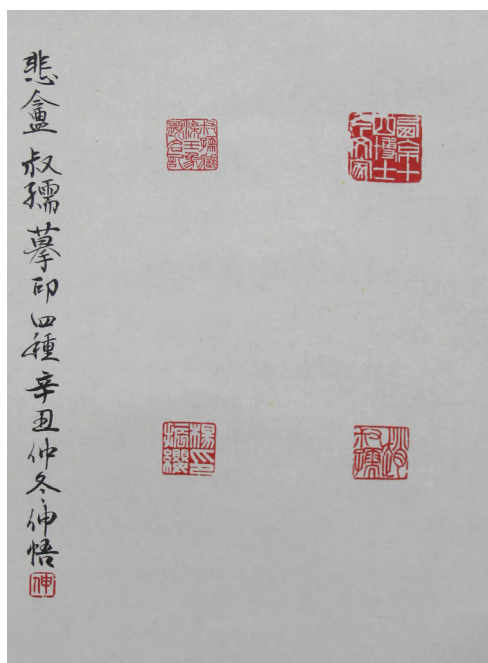
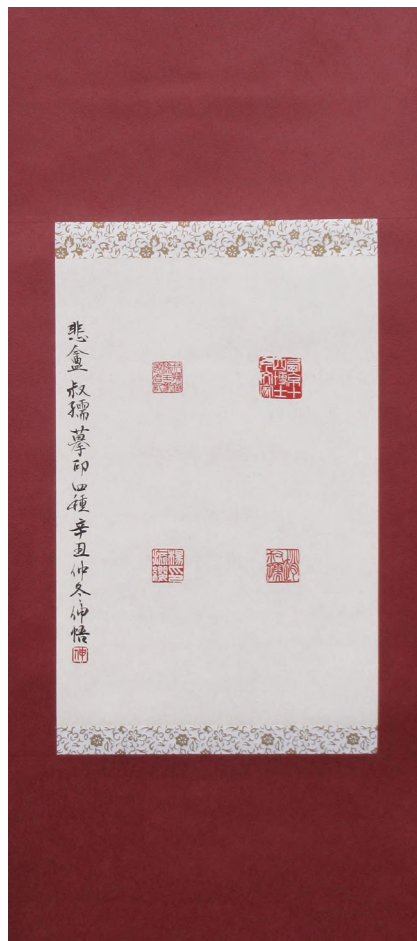
感想	釈文	題	学年
私は赤田臥牛の詩を行草で創作しました。工夫した点は、潤渇を意識して書いたことと、行間をすつきりみせるようにしたこと。普段、創作をあまりしないのでかなり苦戦しました。今後の作品制作にも生かしていきたいです。	屋外一痕淡月、山中草點梅花。時今好句迎友、夜坐閑窗喫茶。	赤田臥牛の詩（六言絶句）	二
			名前
			加藤 史也



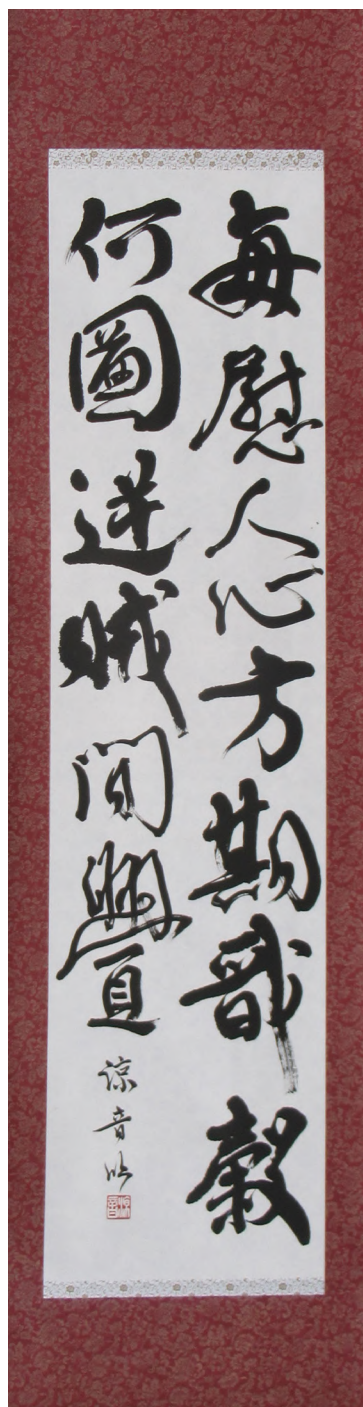
感想	釈文	題	学年
私は書体の中で隷書が一番好きで、その作品の中でも楊峴の作品が一番好きなので楊峴が臨書した西嶽華山廟碑を臨書しました。気をつけたことは、中心がずれやすい為、中心を揃え、全体的に統一感のある作品になるよう留意し、また潤滑が出るように心がけました。	嶽西嶽。峻極穹蒼。奄有河朔。遂荒華陽。石興雲。 雨我農桑。資糧品物。亦相瑤光。冠二州。古曰雍梁。 馮于幽岐。文武克昌。子展義。巡狩省方。	楊峴 臨・西嶽華山廟碑	二
			名前
			水澤 一暢



感想	釈文	題	学年
高校の時は篆刻を上手く刻せず、大学に入学し、篆刻を学ぶ上で興味を持ちました。その中で趙之謙や趙時櫚の細かい表現や雰囲気が好きになったからです。趙之謙や趙時櫚は線が細い作品が比較的多いので全体の雰囲気や欠けている部分などの細かい線の表現を刻しました。	左上 「梁陪玉象永充供養。孺。」 右上 「西京十四博士今文家」 左下 「擁振纓印」 右下 「趙叔孺」	模刻 趙之謙と趙時櫚の印	一
			名前
			伊賀上 伸悟



感想	釈文	題	学年
私は今回、顔真卿の祭姪文稿を臨書しました。祭姪文稿の自由奔放で力強い書きぶりに魅力を感じ、臨書に挑戦してみたいと思いました。しかし、半切サイズなので力強く書きすぎてしまうと、文字が窮屈になってしまうので、文字の大きさや墨の入れ方に気をつけて臨書しました。	每慰人心。方期馘穀。何圖逆賊間釁。	臨 祭姪文稿	一
			名前
			大内 涼音



感想	釈文	題	学年
高校生のときに筆ペンで臨書作品を制作したことがあったので、その経験を活かして半切サイズの作品に書きたいと思い選びました。石に刻られた文字を表現できるように全体的に扁平な字形と筆の強弱による線の変化、分間に気をつけてバランス良く臨書しました。	敦仁博洽、 美人姓董、 祖佛子、 標譽郷閭。父後進、 齊涼州史。 俶儻英雄、 聲馳河。	臨 美人董氏墓誌銘	一
			名前
			奥村 妙

美人姓董汴州恆宜縣人也祖佛子齊
涼州刺史敦仁博洽標譽鄉閭父後
進祿僅英雄聲馳河流

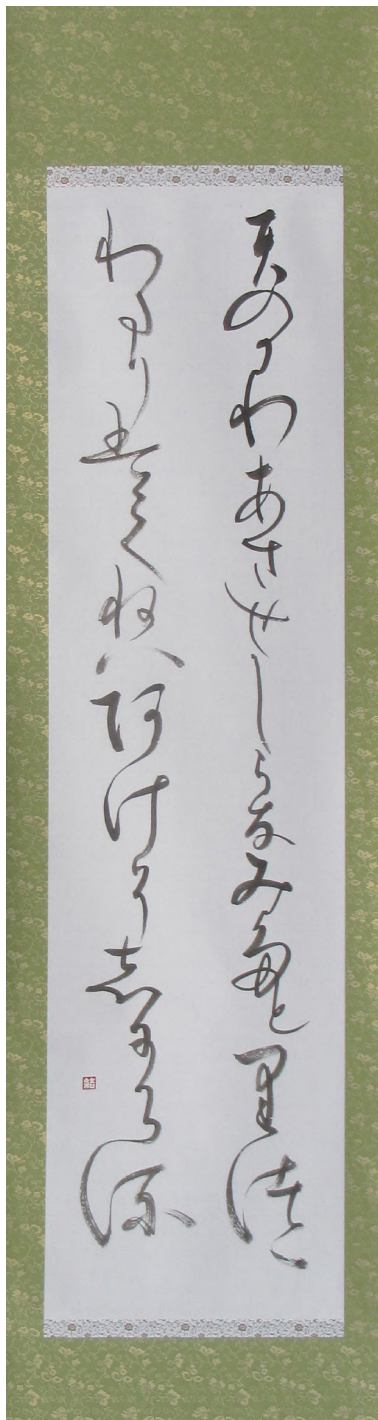
妙修

感想	釈文	題	学年
私は今回、初めて王鐸の臨書作品に取り組みました。初めてということで、連綿の少ない法帖を選びました。五十九歳の時の作品ということで、若々しい線の力強さや動きをよく感じられます。また、行の通りや余白の取り方も一緒に見ることで勢いや雄大さを感じてほしいです。	渙之等白。不審二・常患復何如。馳情倫直等平安。討・倫奴已慶在道。企遲適東五日。動靜最差速。	臨 大鐸臨王渙之帖	一
			名前
			春りりか

漢之詩白不審腰帶中復何如馳情
 倫直等東安討奴之應在道企
 道東音勒勒家多遠

利々香臨

感想	釈文	題	学年
今までは行草書を専門的にやっていたのですが、新しいことに挑戦してみたいと思い大字仮名の創作をしました。最初は一字一字が単体に見えやすく行全体の流れがあまりなかったのですが、文字全体に縦の流れを入れたことで行の流れとリズム感を作ることができました。	天河 あさせしら浪 たどりつつ わたりはてねば あけぞしにける	古今和歌集より一首	一
			名前
			溝上 結衣



感想	釈文	題	学年
日本人の行草の作品を書いてみたいと考え藤原佐理の離洛帖を選びました。私が書くには技術と時間が足りなく中途半端な作品となってしまうかもしれません。スピード感あふれる奔放自在な筆致で書き進められた詫び状ということを意識して書きました。	也。謹言。離洛帖之後、未承動靜、恐鬱之甚、異於在都之日者就中、殿下何等事御坐哉。進發以前、不参之勘責、無方避逃。	臨 離洛帖	一
			名前
			山田 珠里

珠里吟

香港城市大學作品

會計系校友 王瑋樂

奇尚書退食齋用東坡韻賦一絕

獵獵風輕細雨斜
春工催却一番花
宅邊唯種陶潛柳
不似人間富貴家

右錄韓國文人李奎報奇尚書退食齋用東坡韻
賦一絕 香港城市大學景祥祐選詩作為齋思
古詩新解新譯獎比賽題目以韓國優美漢
字詩詞推動中韓人文交流 辛丑年冬月

瑋樂書於香江





香港城市大學墨袖齋作品

本次展出作品

1.18日中日交流參展名單.xlsx

參展人數	姓名	年級	學系	作品題目(詩名or自定義)
1	黃秀祺	大三	商業分析	春望
2	張書榕	大一	電機工程	春夜洛陽城聞笛
3	王佳萱	大一	資訊系統	清平調
4	張晶	大二	法律	春和景明
5	王朵朵	大一	傳播與媒體	定風波·莫聽穿林打葉聲
6	馬佳昕	大一	計算數學	夜舟行
7	孟凡祺	大三	電機工程	相思
8	謝一銘	大一	環球商業	春曉

黃秀祺 大三 商業分析

春望

自古以来，诗人都喜欢吟咏春天。唐有杜甫，韩有徐居正同作春望。徐居正很纯粹地表达了自己对春天的细致观察，他所描绘的春天有一种“輕輕的我走了，正如我輕輕的來”的感觉。但杜甫不仅描写了春天，更赋予了自己当下的情感。万物本无情，但杜甫用寥寥数筆將眼前本该是歡快的春之樂章，改成了萬物生靈和他一起同歌同泣一首亡國之曲。

驀地東風
暖律回人
間何地不
春臺無人
得見春來
處只認杏
花開處來

徐居正春望

黃秀祺書

張書榕 大一 電機工程

春夜洛陽城聞笛

此詩抒發了詩人客居洛陽夜深人靜之時被笛聲引起的思鄉之情，其前兩句描寫笛聲隨春風而傳遍洛陽城，後兩句寫因聞笛而思鄉。全詩扣緊一個“聞”字，抒寫詩人自己聞笛的感受，感情真摯，餘韻無窮。

誰家玉笛暗飛聲
散入春風滿洛城
此夜曲中聞折柳
何人不起故園情

辛丑冬月廿一號書於
錄李白春夜洛陽城聞笛

王佳萱 大一 資訊系統

清平調

李白此詩寫玄宗和楊妃觀賞牡丹花，將春意之美與貴妃之容交織在一起。人美，景美，情美，為春天增添了幾分色彩，讓讀者自然地把春天想象成膚如凝脂的美人，形象生動展現春日的獨特魅力。

雲想衣裳花想容
春風拂檻露華濃
若非群玉山頭見
會向瑤臺月下逢

辛丑年冬月十九清平調 王佳萱書

張晶 大二 法律

春和景明

這是我理想中春天的模樣：波瀾不驚，溫而不燥。
我期待在這樣的春日裏卸下身上的種種負擔，
走近自己，帶上春的平和與堅韌再次出發。



香港城市大學
City University of Hong Kong



王朵朵 大一 傳播與媒體

定風波・莫聽穿林打葉聲

在料峭春風中尋求平定，在人生起伏中保持初心。「人生多風雨，貴在泰然處之。」以詞為鑒，自我修煉，無論是風是雨，皆坦然面對。

莫聽穿林打葉聲，何妨吟嘯且徐行。
 竹杖芒鞋輕勝馬，誰怕一蓑煙雨任平生。
 料峭春風吹酒醒，微冷。山頭斜照却相迎。
 回首向來蕭瑟處，歸去也。無風雨也。無晴。

辛丑年冬月定風波王朵朵書

馬佳昕 大一 計算數學

夜舟行

此詩由朋友王熠州所贈，詩中描寫一遊子乘舟歸意好，暮視月納時，忽睹桃花交落，人隨溪上飄蕩，如歸春亦攜歸矣。架一葉扁舟，追星之光，逐春之色正是詩中意境。

舟挽清溪碧流花三
兩殘星映月華春芳
逐盡桃花色怎教隨
客共歸家

辛丑年夜舟行馬佳昕書

孟凡祺 大三 電機工程

相思

紅豆產於南方，結實鮮紅渾圓，晶瑩如珊瑚，南方人常用以鑲嵌飾物。傳說古代有一位女子，因丈夫死在邊地，哭於樹下而死，化為紅豆，於是人們又稱呼它為「相思子」。詩中抒寫的是眷念朋友的情緒。

紅豆生南國
春來發幾枝
願君多采擷
此物最相思

王維詩

吳凡書

辛巳年冬月二十

謝一銘 大一 環球商業

春曉

渾然天成的詩篇寄寓著作者愛春惜春的一片心意，於鋼筋水泥的城市中，願我也能保有這樣一份純真的感受美好的心靈，早起伴著清脆悅耳的鳥鳴開啟新一天的生活，珍惜所有轉瞬即逝的美麗，莫等落花謝，方嘆東風烈。

春眠不覺曉
夜來風雨聲
花落知多少

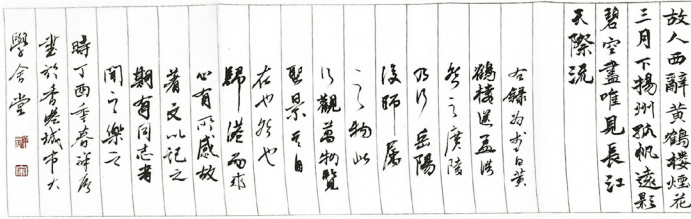
辛丑冬月廿一謝一銘
錄孟浩然詩春曉

2021 赴日展出作品

宋祥辰 (SONG Xiangchen)

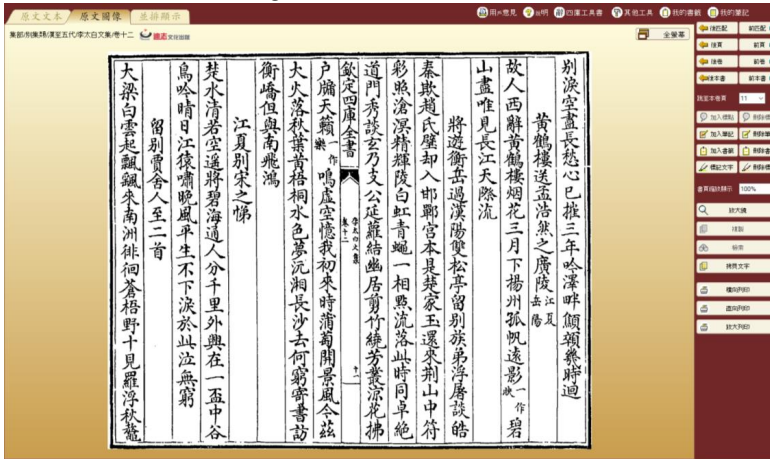
電子工程專業 (Electrical Engineering)

Calligraphic artwork 書法作品



【唐朝】李白〈黃鶴樓送孟浩然之廣陵〉

Reference source image: 李白《李太白文集》《文淵閣四庫全書電子版》



【釋文】

書法作品名稱：黃鶴樓送孟浩然之廣陵

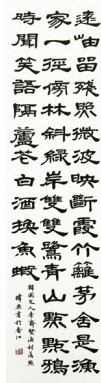
原詩作者：【唐朝】李白

故人西辭黃鶴樓，煙花三月下揚州。孤帆遠影碧空盡，唯見長江天際流。

王瑋樂 (Wong Wai Lok)

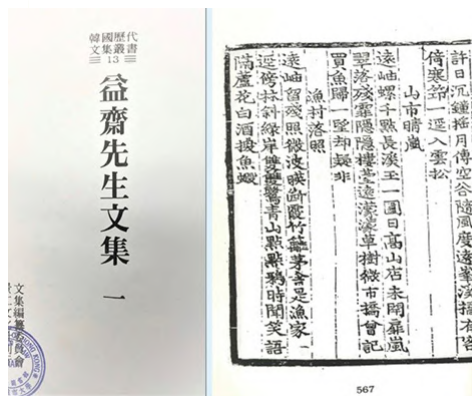
會計系 (Accountancy)

Calligraphic artwork 書法作品



【高麗王朝】李齊賢〈瀟湘八景 - 漁村落照〉《李齊賢·巫山一段雲》

Reference source image: 李齊賢《益齋先生文集》《韓國歷代文及叢書》



【釋文】

書法作品名稱：漁村落照

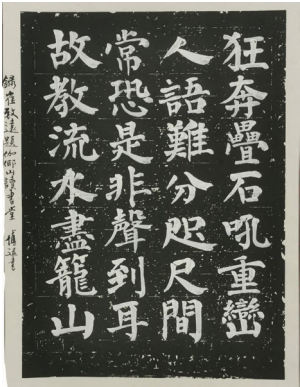
原詩作者：【高麗王朝】李齊賢

遠岫留殘照，微波映斷霞。竹籬茅舍是漁家，一徑傍林斜。綠岸雙雙鷺，青山點點鴉。時聞笑語隔蘆花，白酒換魚蝦。

閻博迅(YAN Boxun)

電子工程專業 (Electronic Engineering)

Calligraphic artwork 書法作品



Reference source image:

【新羅時期】崔致遠 <題伽倻山讀書堂>
《韓國歷代文集叢書 2》《孤雲先生文集二》

【新羅時期】崔致遠 <題詩石>
《文淵閣四庫全書》《朝鮮志卷上》

【釋文】

書法作品名稱：題伽倻山讀書堂

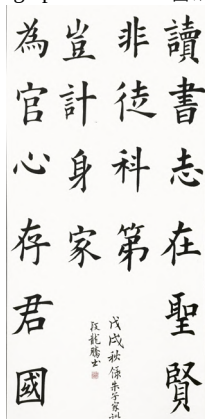
原詩作者：【新羅時期】崔致遠

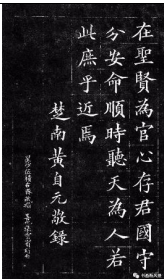
狂奔疊石吼重巒，人語難分咫尺間。常恐是非聲到耳，故教流水盡籠山。

段龍騰(DUAN Longteng)

電腦科學 (Computer Science)

Calligraphic artwork 書法作品



【明朝】朱柏盧治家格言（節錄）	
Reference source image: 【清朝】黃自元小楷《朱柏盧治家格言》	
	

【釋文】

書法作品名稱：朱柏盧治家格言（節錄）

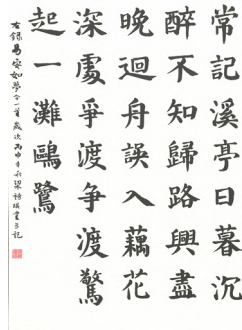
原著作者：【明朝】朱用純

讀書志在聖賢，非徒科第，為官心存君國，豈計身家

梁詩琪(LIANG Shiqi)

會計系 (Accountancy)

Calligraphic artwork 書法作品



【宋朝】李清照〈如梦令〉

Reference source image: 李清照《漱玉词》《文淵閣四庫全書電子版》



【释文】

書法作品名稱: 如梦令

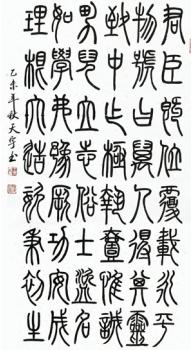
原詞作者: 【宋朝】李清照

常記溪亭日暮，沉醉不知歸路。興盡晚回舟，誤入藕花深處。爭渡，爭渡，驚起一灘鷗鷺。

王天宇(WANG Tianyu)

金融工程 (Financial Engineering)

Calligraphic artwork 書法作品



吳熙載篆書節錄王研雲寶行《勵學篇千文》（節錄）

【清朝】吳熙載篆書節錄王研雲寶行《勵學篇千文》六屏



【釋文】

書法作品名稱: 君臣既位(節錄)

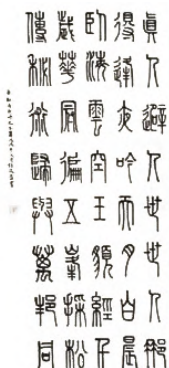
原文作者: 【清朝】吳熙載

君臣既位，覆載永平，物號曰萬。人得其靈，致中作極，執壹惟誠。男兒立志，俗士盜名，如學弗豫。厥功安成，理根大造，姿秉初生。

錢迅雷(QIAN Xunlei)

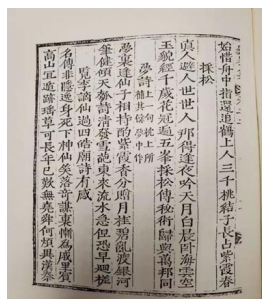
數學系 (Computing Mathematics)

Calligraphic artwork 書法作品



【朝鮮王朝】宋翼弼〈採松〉《龜峰先生文集》

Reference source image: 宋翼弼《龜峰先生文集》《韓國歷代文及叢書》



【釋文】

書法作品名稱: 採松

原詩作者: 【朝鮮王朝】 宋翼弼

真人避人世 世人那得逢 夜吟天月白 晨臥海雲空
玉貌經千歲 花冠遍五峰 採松傳秘術 歸與萬邦同

潘旻雯(PAN Minwen)

經濟與金融系(Economics and Finance)

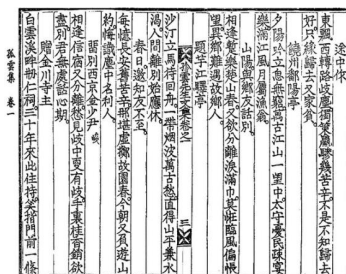
Calligraphic artwork 書法作品

相逢暫樂楚山春，又欲分離淚滿巾。
莫怪臨風偏悵望，異鄉難遇故鄉人。

潘旻雯書

【新羅時期】 崔致遠 〈題伽倻山讀書堂〉

Reference source image: 崔致遠《韓國歷代文集叢書1》《孤雲先生文集一》



【釋文】

書法作品名稱: 山陽與鄉友話別

原詞作者: 【新羅時期】 崔致遠

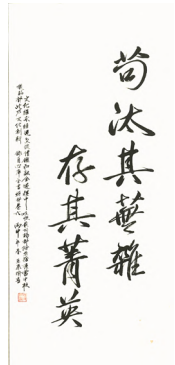
相逢暫樂楚山春，又欲分離淚滿巾。

莫怪臨風偏悵望，異鄉難遇故鄉人。

王康瑜(Wong Ruby)

中文與歷史系(Chinese and History)

Calligraphic artwork 書法作品



【清朝】李文藻〈易例二卷〉

Reference source image: 《欽定四庫全書總目卷六》《文淵閣四庫全書電子版》



【釋文】

書法作品名稱: 去蕪存菁

原詩作者: 【清朝】李文藻

苟汰其蕪雜，存其菁英。

許育誠 (Hsu Yucheng)

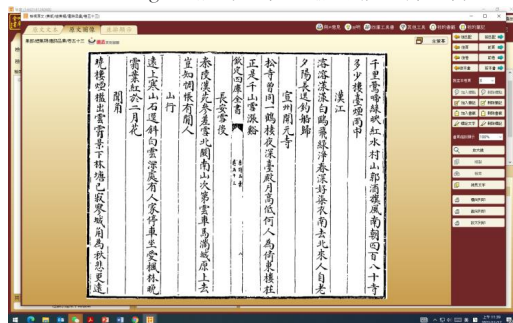
資訊科學 (Information science)

Calligraphic artwork 書法作品



【唐朝】杜牧〈山行〉

Reference source image: 《唐詩品彙》《文淵閣四庫全書電子版》



【釋文】

書法作品名稱: 山行

原詩作者: 【唐朝】杜牧

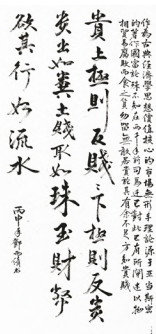
遠上寒山石徑斜，白雲深處有人家。

停車坐愛楓林晚，霜葉紅於二月花。

鄧雨倩(DENG Yuqian)

經濟與金融系 (Economics and Finance)

Calligraphic artwork 書法作品



【漢朝】司馬遷〈貨殖列傳〉

Reference source image: 〈貨殖列傳 第六十九〉《史記 卷一百二十九》《文淵閣四庫全書電子版》



【釋文】

書法作品名稱:《史記·貨殖列傳》摘錄

原文作者:【漢朝】司馬遷

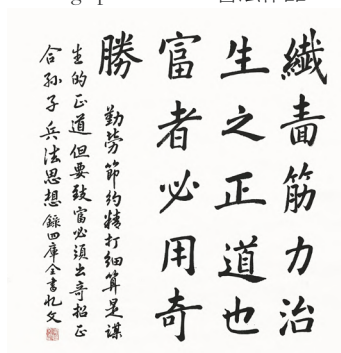
貴上極則反賤，賤下極則反貴。

貴出如糞土，賤取如珠玉，財幣欲其行如流水。

黃憶文(WANG Yiwen)

金融系 (Finance Department)

Calligraphic artwork 書法作品



【漢朝】司馬遷〈貨殖列傳〉

Reference source image: 〈貨殖列傳 第六十九〉《史記 卷一百二十九》《文淵閣四庫全書電子版》



【釋文】

書法作品名稱: 《史記·貨殖列傳》摘錄

原文作者: 【漢朝】司馬遷

織耆筋力，治生之正道也，富者必用奇勝。



聽見 書法

LISTENING TO
CALLIGRAPHY

何傳馨教授點評
日本學生水澤一暢書法

PROFESSOR HE CHUANXIN'S COMMENT
ON THE CALLIGRAPHY OF JAPANESE
STUDENT MIZUSAWA IYO



特別鳴謝：

策展人 (Curators):

黃秀祺 (Huang Xiuqi) 李靖妍 (Li Jingyan)
陸芄菲 (Lu Pengfei) 王一茗 (Wang Yiming)
李博潤 (Li Borun) 段文博 (Duan Wenbo)
張訓卓 (Zhang Xunzhuo) 韋麗米娜 (Wei Limina)

學術顧問 (Academic Advisors)：

太田剛 (Ota Tsuyoshi) 景祥祐 (Steve Ching)

書法項目導師 (Tutor)：

王瑋樂 (Richard Wong)

翻譯 (translators):

渡邊浩樹 (Watanabe Hiroki)
郭鍾蔚 (Guo Zhongwei) 顧心怡 (Gu Xinyi)

版面編輯 (Compilers):

李靖妍 (Li Jingyan) 陸芄菲 (Lu Pengfei)

